

文化財だより 第175号

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和元年10月1日発行

- 鉄道と磐田
 - 一駅・東西路と南北路の交差一 P1~2
- 津倉家住宅の一般公開をおこないます P3
- 『国分寺まつり in 遠江』を開催されます! P4
- コラム『校歌の中にあるふるさとの原風景』
 - 谷口安曇 P4

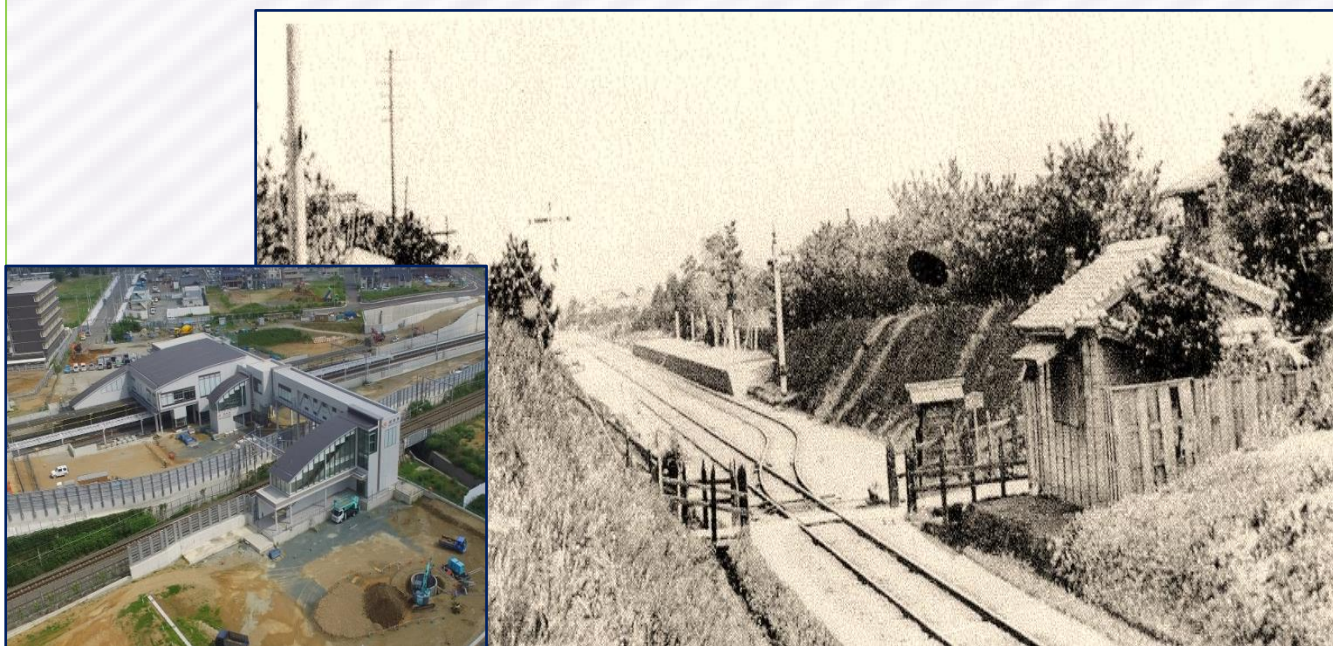


磐田市歴史文書館企画展を開催します

鉄道と磐田

一駅・東西路と南北路の交差一

開催期間 令和元年11月5日(火)~12月20日(金)



完成近づく御厨駅(令和元年/2019年7月)
 <磐田市都市整備課より>

開通当時の東海道線中泉停車場(明治22年/1889)
 <磐田の記録写真集 第2集より>

明治22年(1889)に東海道本線の中泉停車場(現磐田駅)が開業し、今年で130周年になります。この間、鉄道は様々な「ひと・もの・こと」を運んできました。また、地域づくりのため、鉄道建設の夢に挑んだ多くの人々もいました。

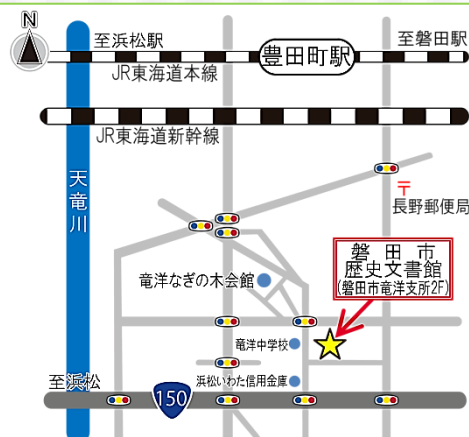
そして、来春には磐田市内に6つ目の駅、「御厨(みくりや)駅」が誕生します。

こうした「鉄道と磐田」の関わりを、歴史文書館所蔵資料をもとに紹介します。

- 休館日 土・日・祝日 入館無料
- 展示時間 9:00~17:00 (入場は16:30まで)
- 会場 磐田市歴史文書館展示室
(磐田市岡729-1、竜洋支所2階)
- 問合せ先 磐田市歴史文書館

TEL:0538-66-9112 FAX:0538-66-9722

★令和2年1月には、磐田市立中央図書館で展示及び歴史学習会を開催します。詳しくは、市HP、文書館だより、文化財だよりなどでお知らせします。



みどころ 1 東海道本線の駅と磐田びとの願い

明治 22 年（1889）に東海道線に中泉停車場、その約 100 年後の平成 3 年（1991）に豊田町駅が開業し、さらにその約 30 年後の令和 2 年（2020）には御厨駅が開業の予定です。

そこには、駅誘致に協調・尽力する人々、また願いが叶い駅開業に喜ぶ人々の姿がありました。

市所蔵文書、記録写真、開業記念品などをもとにその歴史を振り返ります。



豊田町駅開業記念品など（平成 3 年）

みどころ 2 旧敷地村文書に見る磐田びとの熱

大正 10 年（1921）、「鉄道敷設法」改正案により、掛川から二俣を経て、岐阜県の大井（現恵那市）に至る「遠美鉄道」建設が示されました。敷地村（磐田市豊岡東地区）では、この路線の誘致に向けて、幾度も陳情を繰り返しました。

関東大震災によって建設が延期となったり、軍部の意向により「二俣線」建設計画に変わったりしても、粘り強く請願と陳情を続けました。

昭和 15 年（1940）の国鉄二俣線（現在の天竜浜名湖鉄道天竜浜名湖線）開業によって願いを実現するまでの歩みを、旧敷地村役場文書をもとにたどります。



旧敷地村役場「鉄道関係書類」綴り

みどころ 3 まぼろしの鉄道に描いた磐田びとの夢

大正 7 年（1918）、袖浦村駒場（磐田市駒場）に港を造り、池田村（磐田市池田）を経由して野部村神田（磐田市上野部）まで、天龍軽便鉄道を建設する計画が立ち上がりました。計画は実現しませんでした。今回の企画展に合わせるかのように、目的などを記した文書が発見され、「沿線部の産業発展に寄与し、一般旅客の交通の便を図り、



天龍軽便鉄道線路平面図（部分／左が北）

天龍軽便鉄道線路平面図

北遠地方の産物の運輸機関を完成…」という内容が確認できました。

池田村で中泉軌道（※）に接続し東海道本線へつなぎ、袖浦村にて海路と連絡するという壮大な構想を、貴重な路線図や文書の展示を通し、紹介します。

（※）中泉軌道 明治 40 年（1907）に開通。中泉と池田村間の約 9 キロを、人力で人や物資を運搬した。昭和 5 年に廃止されるまでの 23 年間運行した。

津倉家住宅の一般公開をおこないます



津倉家住宅外観

今年も貴船神社の祭典である掛塚祭(※)にあわせて、「津倉家住宅」を公開します。この機会にぜひ、掛塚湊の繁栄の歴史を伝える貴重な文化財を見に行きませんか？

●日時 10月19日(土)、20日(日)

申込不要・見学無料

●公開時間 9:00～16:00(最終入場 15:30)

●住所 磐田市掛塚1099

●駐車場 天竜川掛塚橋下河川敷駐車場

●JR 磐田駅・豊田町駅・浜松駅からバス

「掛塚」下車徒歩5分



掛塚祭屋台(貴船神社にて撮影)

(※)祭典で演奏される屋台囃子は県指定、8台の屋台は市の指定文化財。屋台囃子は南北朝時代に公卿から習ったと伝わる。屋台は、名工が刻んだ彫刻と精巧な刺繍を施した天幕で飾られている。

津倉家住宅とは

江戸時代から水運業の拠点として栄えた掛塚で、津倉家は材木商・両替商・廻船問屋として、天竜川上流の木材などの運搬に従事し、明治時代には掛塚の中でも有数の規模を誇る豪商となりました。現在も残る主屋は明治22年(1889)、隣接する洋間は昭和10年(1935)に建てられたもので、掛塚湊の歴史を伝える商人の屋敷として貴重な文化財です。

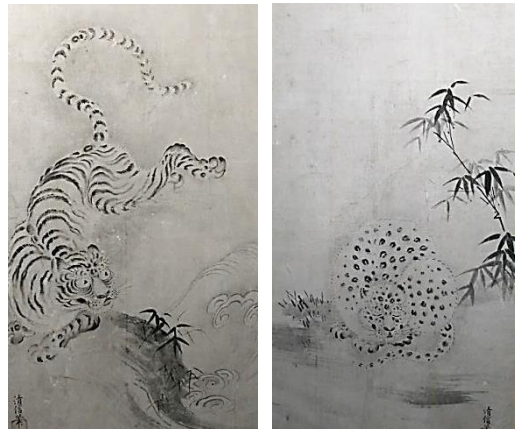
みどころ 洋風応接間

昭和10年(1935)に建てられた洋間は、シノワズリ(西洋人の中華趣向)をテーマに、昭和の初め頃に東京で流行していた「洋館付住宅」(和風住宅の一部を洋風応接間としたもの)を意識して増築したものだと考えられています。

みどころ 鳥居清信の屏風

江戸時代の浮世絵師、鳥居清信が描いた屏風を公開します。向かって左にトラ、右にヒョウが描かれています。江戸時代、ヒョウはトラのメスだと考えられていたため、このような組み合わせで屏風が描かれました。

和室にある市指定の福田半香、平井頭齋の筆による襖絵とあわせて、ぜひこの機会にご覧ください。



屏風部分(左:トラ、右:ヒョウ)

問合せ:磐田市歴史文書館(土・日・祝日休み) TEL 0538-66-9112

『国分寺まつり in 遠江』が開催されます！

国分寺跡としては全国に3か所しかない国の特別史跡の遠江国分寺跡を知ってもらうために、今年も『国分寺まつり』がおこなわれます。ぜひ、この機会に遠江国分寺跡に行ってみませんか。



©磐田市

●とき:2019年11月9日(土)

※少雨決行、雨天時は翌日順延(内容を変更する場合があります)

国司一行参拝行列(磐田駅～遠江国分寺史跡公園) 11:00～11:45

国分寺まつりイベント 9:30～15:30

●ところ:遠江国分寺史跡公園(磐田市役所北側)

文化財課では、発掘調査の出土品や、整備計画の概要を紹介するほか、市役所から国分寺跡を展望するツアーをします。

展望ツアー:10:30～、13:15～、14:15～

集合場所:文化財課テント(所要時間約30分)

その他のイベント

琵琶などの演奏/舞楽/塔本塑像作り/もち投げなど



昨年の文化財課テントの様子

問合せ 文化財課イベント:文化財課:0538-32-9699

国分寺まつり全体:090-9021-1327(国分寺まつり実行委員会 今井)

職員リレー コラム

校歌の中にあるふるさとの原風景

谷口 安曇

以前掲載された、校歌についてのコラムを見て、私も懐かしいふるさとの校歌を思い出しました。私のふるさととは、沼津市原というところです。南には駿河湾、北には富士山と愛鷹山がそびえる、東海道13番目の宿場町です。街道沿いには寺社が数多くあり、今でも屋号が残る旧家や古いお蔵もあります。

そんなふるさとの校歌の歌詞には、「富士」「駿河湾」「海」「波」など、地域の特色となるワードが出てきます。小・中・高校と海まで徒歩5分以内の立地でしたし、毎日すぐそこには富士山がありました。



東海道五十三次之内 原(歌川広重)

就職を機に、生まれ育った駿河から遠江に来たばかりのころは、「同じ静岡県なのに全然違う！」と思いました。富士山ははるかかなたに薄らしか見え^{うっす}ないし、海まで歩いては行けないし、遠州弁は聞き慣れないし…。

遠江での暮らしのほうの方が長くなった今では、こちらの景色もことばもお馴染みとなりました。ただ、校歌で歌ったふるさとの景色は、いまだに私の原風景です。



編 天高く馬肥ゆる秋、歴史文書館の企画展
集 に、津倉家見学会に、国分寺まつり!!
後 この秋は、『文化財の秋』にしてみませんか?
記 か?ぜひご来場ください。

発行:磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所:〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話:0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。



©磐田市

磐田市 文化財だより

検索